

29年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 9月1日～ 29年9月11日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月	
入荷動向	スギ・ヒノキ	5.0	10.0	15.0
	マツ	△ 31.8	△ 22.7	△ 22.7
	広葉樹	△ 45.8	△ 16.7	△ 20.8
消費動向	スギ・ヒノキ	0.0	11.1	11.1
	マツ	△ 20.0	△ 15.0	△ 15.0
	広葉樹	△ 4.5	△ 27.3	△ 18.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 11.1	0.0	5.6
	マツ	△ 35.0	△ 35.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 40.9	△ 13.6	△ 18.2

・チップ用国産原木の入荷動向は、スギ・ヒノキは3カ月連続増加。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・消費動向は、スギは9月の横ばいから10月、11月は増加に。マツ及び広葉樹とも3カ月連続減少。

・在庫動向は、スギは9月の減少から10月は横ばい、11月は増加に。マツ類、広葉樹とも

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 4.5	△ 4.5	△ 4.5

・チップ用国産原木の購入価格動向は、スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも保合い。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・広葉樹の原木が全然入ってこない（北海道）。
・スギ・ヒノキ、マツは、システム材の入荷により安定的に入荷見込み。天候悪化により入荷減、再生事業等へシフト業者がいるため増加は見込めない。在庫はスギ5.5→5.0、マツ3.0→2.5、広葉樹2.0→1.0（東北）。
・国有林システム販売のパルプ材の入荷が増加。広葉樹は製紙会社が受入制限をしているため、買入れも抑えている。製紙会社の国産針葉樹の買入れが増加。広葉樹については受け入れ制限中（関東）。
・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも仕入、消費、在庫に変動なし（中国）。
・天候、害虫の影響もなく出荷量は安定し、仕入、消費、材工動向とも当月横ばい、翌月、翌々月やや増加見通し（四国）。
・スギ・ヒノキの入荷は8月やや減少したが、秋に入り増えてくると思われる。消費は、スギ・ヒノキ、広葉樹ともに希望数量の納入ができた。先月は先方の都合で少し減産しているため、今月はやや増となる。広葉樹在庫は減っている（九州）。

(原木価格)

・スギ・ヒノキ、マツはバイオマス燃料が増えているためやや高値。広葉樹は安定（東北）。
・針葉樹は変化なし。広葉樹は若干の値下がり（関東）。
・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも原木購入価格に変動なし（中国）。
・スギ、ヒノキは価格改定の予定はない。広葉樹は品質の良い材の入荷が見込まれるので平均単価が上がると思われる（九州）。
・スギ・ヒノキ、マツは基本的に生産、消費、在庫なし。広葉樹原木の価格は横ばいに推移（九州）

29年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
生産動向	スギ・ヒノキ	11.1	11.1	11.1
	マツ類	△ 20.0	△ 20.0	△ 15.0
	広葉樹	△ 9.1	△ 27.3	△ 22.7
出荷動向	スギ・ヒノキ	12.5	18.8	12.5
	マツ類	△ 16.7	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 10.0	△ 25.0	△ 20.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	0.0	6.3	12.5
	マツ類	△ 22.2	△ 27.8	△ 16.7
	広葉樹	△ 30.0	△ 30.0	△ 30.0

・木材チップの生産、出荷動向はスギ・ヒノキは3カ月連続増加。マツ類及び広葉樹とも3カ月連続減少。

・在庫動向はスギ・ヒノキは9月の横ばいから10月、11月は増加に。マツ類及び広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ類	0.0	6.3	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 10.0	△ 5.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向は、スギ・ヒノキ、マツ類は保合い。広葉樹はやや弱含み。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツの出荷は変更なし。広葉樹は在庫数量減により出荷量減（東北）。
- ・針葉樹チップの使用は増えてきたが、広葉樹については受け入れ制限中である。生産は出荷に合わせたものとなっている（関東）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも仕入、出荷、在庫に変動なし（中国）。
- ・製紙用、ボード、燃料生産とも当月横ばい、翌月、翌々月やや増加（四国）。
- ・スギ・ヒノキは製紙用、燃料用ともに、広葉樹も製紙用にフル稼働だ。広葉樹は先月納入先の都合で減産したため、今月はやや増になっている。今後は計画通りの生産、出荷になると思われる。弊社はチップの在庫はしていない（九州）。
- ・紙パルプ用広葉樹チップを生産計画に基づき生産。生産、出荷とも9月は増加。広葉樹チップの当月在庫はなし。基本、在庫は置かないこととしている（九州）。

(木材チップ価格)

- ・広葉樹のチップ価格は値下げである。製紙会社の受入数量も30～40%減である。為替レートの関係で安い輸入チップをするため、国産チップは抑えているようである（関東）。
- ・針葉樹は変化なし。広葉樹は若干の値下がり（関東）。
- ・スギ・ヒノキ類、マツ類、広葉樹の出荷価格に変動なし（中国）。
- ・スギ・ヒノキ類、マツ類、広葉樹ともに変動なし（四国）。
- ・スギ・ヒノキ類の燃料用チップが、品質の良いものについては価格が上がる見通しだ。製紙用は全樹種変わらない（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいに推移（九州）。